

平成24年度 諏訪清陵高等学校評価表～教育目標・取組み・評価～(年度末評価)

※評価(達成度) 1: 不十分 ~ 5: 十分達成された

教育目標	取組み	評価の観点	達成度	ご意見(本年度の取り組み・次年度への課題等) ○成果、◆課題、■改善策・向上策	(参考数値)
生徒の学力向上 (重点目標)	①生徒の家庭学習時間の増加 ②教員の指導力向上と授業改善 ③教科における課題の明確化と解決に向けた計画的な取組み ④SSH、生徒による授業評価、自反会(土曜講座)、授業シラバスの活用	①生徒の学力が向上したか	1・2・3・4・5	○数検補修などを進めて、授業内容を充実した学習で踏み込んだ。(3年) ●上記、下宿単への取り組み、■読書等を中心に読書等計画におこなう。(2年) ○数学の日々の演習、国語の希望課題や100字要約、英語の単語テストや週末課題など、各教科の工夫や努力によって、学年全体あるいは上位者に継続的な学習を意識させ、学習に取り組む学習集団の雰囲気づくりができた。徐々にではあるが、力もついできている。(1年) ○引き続き学年の協力のなかで、課題を継続的に与えてきた。生徒の学力向上につながるとは思われる。(英学) ○2年生の模擬試験の成績によれば、化学などはマーク・記述式構成員いずれにおいても平均偏差値が伸びた。(理科) ○物理、化学、生物のセンター試験の本校平均点は、全国10点前後上回った。(理科) ○保健の試験では、前年平均点では1年生が2年生10点も下回る状況であったが、後期では1年生が平均点で上回った。(保健) ○各学年、一定の成績は上げられた。(英学) ◆生徒一人一人の取り組みの進度が異なる。 ■少しづつ場面を区切って作業させる。(情報)	・生徒学習状況調査 ・試験成績(模試、センター試験) ・生徒による授業評価
		②生徒の満足する授業、知的探 究心を喚起する授業ができたか	1・2・3・4・5	○各教科授業評価アンケート結果を参考に、前置工夫しながら授業を行った。(3年) ●各学年集団の理解教材に対する興味関心の度合いが異なる、それぞれの集団に見合った授業内容の精選が必要である。一学年の基礎科目の考慮で従来見られなかった視点の存在があることを念頭置いて授業を行う必要がある。 ■改めて、授業内容の精選を図る。(理科) ○ほんたごの生徒が意欲的に取り組んでいる。(保健) ●オンライン授業を学ぶ、欠席する生徒(3年)が例年より多かった。 ■授業に取り組む姿勢を身に付けさせたり、体調管理に注意するよう指導を継続する。(保健) ○生徒の集団にあった教材を選ぶ工夫ができた。(英語) ○複雑な文章の作成や計算をさせることによりワープロソフト、表計算ソフトを利用することが有効な手段であることが分かった。(情報) ○身近な題材を提示することにより、情報社会の中で身の回りや起きている事柄への理解が深まった。(情報)	
		③家庭学習時間の増加が図られたか	1・2・3・4・5	○1年次から毎月継続して3年7月まで生活実態調査を行い、学習不適応の生徒を小規模に食い止める効果があつたとと思われる。(3年) ○生活実態調査をもとに、面談等で家庭学習の時間を促した。(2年) ○6月、7月、11月、12月各自学習時間調査を行い、それぞれ学習時や行事後などのタイミングで有効な家庭学習の意識付けができた。(1年) ■他教科との関係もみながら改善策を考えた。(国語) ○課題を継続的に与えることと、家庭学習時間の確保につながったと思われる。(英学) ●■授業アンケートの生徒の回答では、理科の家庭学習は十分ではない。他教科との関係から、理科は履修を始めており、夏・冬期間、学習量が多くなり授業を休んでいきた。予習は学校での5分予習を勧めている。(理科) ◆他教科の学習が中心で、保健の試験対策はできていない。(1、2年生) ■履修の中・遅延を、減少させるよう工夫する。(保健) ○課題の増加などにより、学習時間の増加は図ることができた。(英語) ◆実習が多いという教材の性質上、予習・復習という学習スタイルの弊にはあはめることが難しい。(情報)	
		④生徒による授業評価に基く授業改善がなされたか	1・2・3・4・5	○取組の成果や進度などを授業評価をもとに調査した。(3年) ◆■授業評価は数値に反映してきており、また授業改善の成果は活きた。ただし、授業進度については進学校のあり方があり、それを望む生徒も多く、理科が苦手な生徒に努力を期待する。(理科) ○生徒のわかりやすさを確保する工夫がなされた。(英語) ○生徒の理解度の合わせた授業展開を心がけた。(情報)	
主体的な進路選択と進路実現の支援	①合同HR、講演会、自反会交流会(先輩外部講師)等による進路意識の向上と進路研究への支援 ②実力テストや校外模試の分析と事後指導 ③生徒・保護者、職員への進路情報の共有化 ④指導の継続及び改善のための進路係と各学年間の連携	⑤各教科の課題が解決されたか	1・2・3・4・5	○模試の結果を各教科で共有することで、昨年と比較、他教科との比較ができ、力の入りどころがはっきりしてきた。(3年) ◆●■模試のものを活用しながらも、教員会や自身の場で学年間で情報をできるだけ共有するようにしてきた。(数学) ◆●■教育課程1年生の基礎科目の単元・少ない単元・内容が豊富でなかなか進度がすすまない。また、65分単位授業では授業展開が急ぎすぎで定着しにくいことなど課題がある。 ■授業進度を進め理科の演習が早めに行えるよう取り組んでいる。(理科) ○各学年、各教科間で連携が図られ、課題に積極的に取り組んだ。(英語)	
		⑥自反会の目的に貢献できたか	1・2・3・4・5	○自反会の管理が職員らの協力のもとで進められるようになった。特修履修は毎日履修である。(3年) ○常に履修進捗を管理した。(国語) ◆●■土曜講座は、学年によって内容設定が異なったが、改善の余地もある。学年毎方針を決めるので、各学年の意図を統一する。(英語)	
		⑦シラバスの整備と活用が図られたか	1・2・3・4・5	○全学年冊子としてまとめ、活用された。(進路指導) ○■生徒の習熟度を測りつつ、最終的に授業の進度を考えた。(国語) ○教科シラバスに基づき授業が行われた。(英語)	
		①生徒の進路意識を向上させ主体的な進路選択ができるような取組みができたか	1・2・3・4・5	○全学年とともキャリア教育計画に基づき生徒の進路意識の向上に努められた。(進路指導) ○3年間の継続的な進路指導のもと、大学進学への意識付けが定着し、全員がセンター試験に挑戦し受験した。(3年) ○11月のキャリア学習会は、生徒の進路選択に活用された。(2年) ○10月の進路講話は、昨年度の時期が足りなかったという反省から、大学の先生方の時間を90分確保した。分科会ごと、それぞれの内容がより充実して好評であった。(1年)	
		②生徒の自己目標実現のための指導に十分取り組めたか	1・2・3・4・5	○大学見学では個々の目標をしっかりとすることができた。また今年は、1年生が積極的に参加し、早い段階から進路を考慮することとなった。(進路指導) ○十分な時間とふさわしい、進路カード等を利用して、「自己理解」「職業理解」「学習分野の理解」などを計画的に行うことができた。(1年)	
		③実力テストや校外模試が有効に活用されたか	1・2・3・4・5	○受検校を決めていく中で、生徒保護者等と大いに活用された。(3年) ○4月の模試の結果は、学年によって内容設定が異なったが、改善の余地もある。また、65分単位授業では授業展開が急ぎすぎで定着しにくいことなど課題がある。 ○7月から10月までの模試の進捗は、学習の取り組みや学習方法について考えさせる材料となり、面談や懇談会で活用することができた。(1年)	・大学合格状況 ・実力テスト及び模試の検討回数
SSHに向けた学校全体の取組み	①理科を中心に、高度な科学的思考力を育み学力を高めるための指導方法等の開発 ②理科に重点を置いた教育課程の導入(2、3年) ③大学、企業との連携 ④「清陵サイエンスフォーラム21」の開発 ⑤科学系クラブ活動の振興 ⑥国際性を育む	④進路情報が生徒・保護者、職員に適切に伝えられたか	1・2・3・4・5	○指定校推薦などの情報他学年にも呼びかけで多くの生徒が同条件で見られるようになった。(3年) ○PTA総会後、PTA講演会後に学年PTAの機会を持ち、学習状況・進路指導状況、大学受験に向けての備忘と学校・学年としての指導方針等を説明した。必要に応じて個別に、丁寧に指導を行っている実態を知り、安堵される保護者も多かった。(1年)	・SSH意識調査 ・各事業終了後の生徒充実度調査
		⑤進路係、各学年間の連携が十分に図られたか	1・2・3・4・5	○毎学年進路係に各学年主任が出席することで、進路と学年が常に最新の情報を共有できた。(3年) ○進路係会を定期的に開き、係としての方向性を確認し、学年間の情報交換や連携を取った。さらに連携を深められるように努力したい。(進路指導)	
		③生徒の満足度を高める取組みであったか	1・2・3・4・5	○計画通り実施できた。 ○生徒の評価は良好である。 ○SSH推進各生が参加した。	
		④連携を効果的に行ったか	1・2・3・4・5	○計画通り実施できた。 ○生徒の評価は良好である。 ○進路調査を精進し、生徒の負担を軽減した。	
中高一貫教育に向けた学校全体の取組み	①6年間の教育課程(具体像)の策定 ②施設設備に關わる具体案の計画・推進 ③全体構想の周知 ④パンフレットの作成	①中学校と高校を有機的に結びつける教育内容になっているか	1・2・3・4・5	○各教科の6年間の指導計画に加え、附属中学校の授業の特色を明らかにすることができた。 ◆■1期生が入学してくる前に、中学3年間の全体像及び高校とのつながりを明確にしておくよう、細部の検討を促す。	
		②教育方針向上に資する内容になっているか	1・2・3・4・5	○「根と枝のつながりがある空間」「エコスクール」という特徴ある校舎になる見通しがもてた。	
		③地域説明会等を通じて、本校の目指す中高一貫教育を十分に伝えられたか	1・2・3・4・5	○■主催の説明会他に学校主催の説明会の計画・実施。また依頼のあった会場での説明を行うことができた。 ◆■開校前年度ということ意識して、さらに説明会の内容、回答の充実を図る。	
		④目指す生徒像がわかるパンフレットが作成できたか	1・2・3・4・5	◆■本年度の説明会用のパンフレットをよりわかりやすく、魅力的なものにしていく。	
自主・自立性を基づく「清陵生としての自覚」を高める指導	①学友会の諸機関と協議して、生徒に自ら考えさせる指導 ②学校生活におけるモデルの向上	①学校生活の様々な場面で適切な指導ができたか	1・2・3・4・5	○地方教育執行事における事例をはじめとして、対応案については各年と連携しながら適切に対応した。 ○11月対応に即してマニュアルを作成し、教職員間の共通理解を図った。	
		②学友会→効果的な指導助言ができたか	1・2・3・4・5	○■地方会の方針については一定の方向性が打ち出されたが、実年度以降、学友会活動が具体的にどうなっていくかを必要とする必要がある。 ○学友会執行部との連携を実行以上に行う。	
		③生徒の自主・自立性を尊重した指導ができたか	1・2・3・4・5	○■自主性を尊重した指導に努めた。 ○■マナーやモラルに関すること、また精神的成長につながる上下関係のあり方等について、自ら考える姿勢の養成に努めた。	
学友会の自主的活動支援とクラブ活動の活性化	①顧問の適切な指導 ②活動の保障	①学友会活動を自主的に推進するための指導ができたか	1・2・3・4・5	○■顧問の相談・学年係の役割の見直しが行われたので、円滑な指導体制が必要と思われる。	・クラブ加入者数
		②クラブ活動の時間、場所を保障し適切な指導ができたか	1・2・3・4・5	○■顧問の相談、活動場所の確保・調整が必要となってくる。	
		①HP、「清水ヶ丘便り」等は充実していたか	1・2・3・4・5	○HPは更新頻度の高い、タイムリーな情報と地域に発信された。 ○清水ヶ丘便りは、一部記載ミスがあったものの、掲載内容は工夫された。 ○学校案内は、昨年のものを一部更新した。授業公開、体験入学、学校訪問等がある前編で追加し、学校のPRに役立った。 ■学校案内の発行時期が6月では遅いので、次年度は4月中に発行したい。	
広報活動の充実	①HPの充実と校内運営体制の整備、広報誌「清水ヶ丘便り」の充実、学校案内ビデオ・パンフレット作成、中学校訪問 ②授業公開日の適切な設定	②本校の教育活動を保護者、中学校、地域住民等に十分に伝えられたか	1・2・3・4・5	○■2回公開授業を行い、中学生を中心に多くの参加者があった。本校の教育活動を多くの方に伝えられた。 ○■体験授業の参加者は、昨年度より増加した。次年度も引き続き内容を充実させていきたい。 ○■中学校訪問は本校のPRを行うとともに本校に対する意見・評価を聞き、今後の講演のあり方等具体案を考えて行く資料とした。	・HP更新回数 ・広報誌発行回数 ・授業公開来校者数